様式３

公立大学法人静岡文化芸術大学

令和２事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和３年８月

静岡県公立大学法人評価委員会

第１　公立大学法人静岡文化芸術大学の令和２事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」（H19.12.5 制定）に基づき、令和２事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

１　評価に当たっての基本的な考え方

(1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。

(2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。

(3) 次期の中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

２　評価方法

(1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。

(2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。

(3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の４つの目標別に総合的に検証した。

第２　全体評価

１　評価結果と判断理由

⑴　評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の令和２年度の業務実績に関しては、全体として**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と評価する。

⑵　判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の育成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

第２期中期目標期間の５年目である令和２年度は、昨年度に実施した当評価委員会の評価において意見した事項の改善に努めながら、ＩＣＴを活用した教育の実施や学生支援の充実など、第２期中期計画及び年度計画の達成に向け、教職員を挙げて取り組み、着実に成果を上げた１年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第３　項目別評価」のとおり、**「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」**、**「法人の経営に関する目標」**、**「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」**及び**「その他業務運営に関する重要目標」**の全ての項目について、**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と認められ、これらの状況と令和２年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、⑴のとおりの評価が相当と判断した。

⑶　令和２年度の重点的な取組

ア　新型コロナウィルス感染症の流行への対応について

学生及び教職員を感染症から守るため、**迅速な危機管理対応**を行っただけでなく、教育研究活動のあらゆる面において、通常とは異なる代替の手段を創意工夫し、学生に学びの機会を提供した。また、その中から、遠隔授業やオンラインによる語学研修などの新たな教育手法の実施、入試広報を始めとするオンラインでの情報発信の充実など、**コロナ禍後においてもレガシーとなり得る取組**も創出した。(No.2、3、9、11、17、19、20、31、35、45、50、53、57、58、61、64、70、72、75、77、79、87、88、90、94、95、96、97、98、103、104、105、108、109、116、126、128、129、134)

イ　文化政策研究科の教育内容及び体制の見直しについて

文化政策学部の３学科のうち、最も学生数の多い国際文化学科から大学院

へ進学しやすくするため、**研究科の専門領域を見直し**、「グローカルスタディーズ」領域を設置して**新カリキュラムを策定**した。また、学部の教員のうち、**大学院を担当する教員を増員**し、教育体制を強化した。(No.25、26、27、29)

ウ　創立20周年を契機とした情報発信について

　コロナ禍により、創立20周年記念式典等の集客を伴う各種行事は中止となったものの、大学の活動を幅広く紹介するデジタルアーカイブの公開などの情報発信を展開し、静岡文化芸術大学基金の募集や卒業生との連携強化につなげた。(No.61、96、113)

２　評価に当たっての意見、指摘等

・　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な活動が中止又はオンライン方式に変更された結果として発生した剰余金について、**学生の福利厚生に寄与する取組**に活用されることを期待する。

・　文化政策研究科において、学生数が増加しているものの、定員を満たすには至っていないため、引き続き**定員確保に努める必要**がある。一方、デザイン研究科においては、学生数が定員を超過する状態が続いているため、**定員管理を適切に行う必要**がある。

・　令和３年度は、第２期中期目標期間の最終年度であることから、中期目標・中期計画を着実に達成するとともに、次期中期目標期間を見据え、今後の大学の飛躍に向けた取組を明確化し、発展的な法人運営を行っていくことを期待する。

〔参考〕項目別評価の結果

１　大学の教育研究等の質の向上に関する目標	Ⅰ 特筆すべき進捗状況	**Ⅱ 順調に進んでいる**	Ⅲ おおむね順調に進んでいる	Ⅳ やや遅れている	Ⅴ 重大な改善事項がある
２　法人の経営に関する目標	Ⅰ 特筆すべき進捗状況	**Ⅱ 順調に進んでいる**	Ⅲ おおむね順調に進んでいる	Ⅳ やや遅れている	Ⅴ 重大な改善事項がある
３　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	Ⅰ 特筆すべき進捗状況	**Ⅱ 順調に進んでいる**	Ⅲ おおむね順調に進んでいる	Ⅳ やや遅れている	Ⅴ 重大な改善事項がある
４　その他業務運営に関する重要目標	Ⅰ 特筆すべき進捗状況	**Ⅱ 順調に進んでいる**	Ⅲ おおむね順調に進んでいる	Ⅳ やや遅れている	Ⅴ 重大な改善事項がある

第３　項目別評価

Ⅰ　大学の教育研究等の質の向上に関する目標

１　評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の 96 項目中６項目が**「計画を上回って実施している」**、90 項目が**「計画を十分に実施している」**と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 英語・中国語教育センターの YouTube チャンネルでの留学経験者の英語インタビューの公開、大学 Web サイトでの留学経験者の体験記（動画）の公開を行い、**語学教育強化に向けた学生への啓発活動を推進**した。(No.15)

- コロナ感染防止のため遠隔授業を実施したことにより、**教員のＬＭＳ（学習管理システム）利用率が大幅に向上**した。(No.20)

- 学生や教員が遠隔授業システムを利用するため、ラウンジや学生食堂、会議室等への**無線 LAN（Wi-Fi)環境の整備を迅速に行い**、コロナ禍での学習継続を支えた。(No.35)

- 外部の財源（後援会費、日本学生支援機構寄付金）を活用し、混雑時間帯を避けて食堂・購買を利用する学生に割引価格で食事を提供し、**感染症対策と学生支援を両立**させるとともに、前年同時期に比べ利用人数及び利用金額を増加させた。(No.50)

- コロナ禍において、新たな海外インターンシップ先を確保し、サンパウロのジャパンハウスと共同で**オンラインインターンシップを実施**した。(No.79、87)

- 海外派遣ができない状況下で、国際交流の機会を学生に提供するため、民間企業に委託して**オンラインによる語学研修を開講**し、**研修費用の補助を実施**した。(No.88、90)

２　評価に当たっての意見、指摘等

・　コロナ禍により促進されたＩＣＴの利用を更に発展させ、**質の高い授業の実施、社会人学生の受入、国内外の大学との連携**などにおいて、より効果的に活用していくことを期待する。同時に、対面で行う必要のある活動については、十分な対策を行った上で実施し、**学生にとって最適な教育環境を確保**することを期待する。(No.2、3、9、11、17、20、45、53、57、64、77、79、87、88、90)

・　**多様な学生を受入れ、多様な学び方を支援する**ため、今後も積極的に配慮を行い、実効性のある取組を継続されたい。(No.7)

・　令和元年度に開始した文明観光学コース（文化政策学部）及び匠領域（デザイン学部）や、令和２年度はコロナ禍により実施できなかった共同プロジェクト実践演習（文化政策研究科・デザイン研究科）は、地域と連携した特色ある教育研究であり、大学の魅力向上のため、引き続き実施・運営に尽力されたい。(No.16-2、16-3、25、26、27)

・　コロナ禍及びハラスメントについての臨時の学生生活調査など、必要に応じて学生アンケートを行っている。困難に直面している学生を見逃さず、全体の学生の状況を把握するため、**学生アンケートの回答率の向上**を図り、**効果的な学生支援を実現**されたい。(No.49)

・多文化・多言語研究センターを早期に開設し、大学だけではなく地域における多文化共生を推進されることを期待する。(No.84)

〔参考〕小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
１ 教育	４６	３	４３	０	０
２ 学生支援	１９	１	１８	０	０
３ 研究	１１	０	１１	０	０
４ 地域貢献	１１	１	１０	０	０
５ 国際交流	９	１	８	０	０
合　計	９６	６ (6.3%)	９０ (93.7%)	０	０

Ⅱ　法人の経営に関する目標

1　評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の24項目中24項目全てが**「計画を十分に実施している」**と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 学長をトップとする臨時対策会議を隔週で開催し、**感染症対策についての迅速な意思決定を実現**するとともに、部署を跨いだ対策チームの立ち上げや、事務局を挙げた応援体制の構築など、**柔軟かつ機動的な組織運営**を行った。(No.95、109)
- **新財務会計システムを稼働**させ、教職員の利便性を向上させると同時に、システム保守管理経費を約7割低減させた。(No.118)

2　評価に当たっての意見、指摘等

- 理事長が学長を兼務する組織への変更を検討するに当たっては、**適切な組織のガバナンスの担保に留意**されたい。(No.95)
- 寄付金の募集、科学研究費補助金等の外部研究資金の獲得や受託事業の拡大などの増加により、**自己収入の獲得が進められて**おり、引き続き**組織全体での取組を継続**されたい。(No.113)

〔参考〕小項目評価の集計結果

	評価対象項目数	A 計画を上回って実施	B 計画を十分に実施	C 計画を十分には実施していない	D 計画を大幅に下回る
1 業務運営	18	0	18	0	0
2 財務内容改善	6	0	6	0	0
合　計	24	0	24 （100%）	0	0

Ⅲ　自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

１　評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の６項目全てが**「計画を十分に実施している」**と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

・　**創立 20 周年を契機とした広報**や、新型コロナへの対応状況などの最新情報の収集と発信などを積極的に行うとともに、レスポンシブデザインを導入して**大学 Web サイトのリニューアル**を行った。(No.120、121)

２　評価に当たっての意見、指摘等

・　感染症の流行などに左右されずに大学の魅力を発信するため、**状況の変化に順応できる、効果的な広報活動を強化**されたい。(No.120)

〔参考〕小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
１ 自己点検・ 評価	1	0	1	0	0
２ 情報公開・ 広報充実	5	0	5	0	0
合　計	6	0	6 （100%）	0	0

Ⅳ　その他業務運営に関する重要目標

1　評価結果と判断理由

⑴ 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、**「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」**と評価する。

⑵ 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の 16 項目中２項目が**「計画を上回って実施している」**、14 項目が**「計画を十分に実施している」**と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1) のとおりの評価に相当すると判断した。

⑶ 特に評価する項目

- 前期授業の全面オンライン化に係る迅速な実施決定や、感染症対策の方針をまとめた通知及び動画の学生への配信など、新型コロナウィルス感染症の拡大防止に係る取組により、**学生の学修機会を確保しつつ、学内でのクラスター発生を防いだ。**(No.129)

- 海外留学中の学生について、新型コロナの急拡大に伴う突然の都市封鎖等のトラブルがあった際に、大学と学生間で緊密に連絡を取り、**全員無事に帰国**させることができた。(No.134)

2　評価に当たっての意見、指摘等

- ハラスメントの防止のため、学生への Web アンケートの実施、教職員の研修受講等の取組がなされた結果、令和２年度においては**ハラスメント事案が発生することはなかった。**引き続き、各種ハラスメントの防止、意識啓発を徹底されたい。(No.137)

〔参考〕小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備	3	0	3	0	0
2 安全管理・ 防災対策	9	2	7	0	0
3 人権尊重・ 社会的責任	4	0	4	0	0
合　計	16	2 (12.5%)	14 (87.5%)	0	0

参　考

業務実績評価集計表（令和２年度）

区分		評価対象項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育研究等	教育	４６	３	４３	０	０
	学生支援	１９	１	１８	０	０
	研究	１１	０	１１	０	０
	地域貢献	１１	１	１０	０	０
	グローバル化	９	１	８	０	０
	合　計	９６	６ （6.3%）	９０ （93.7%）	０	０
法人経営		２４	０	２４ （100%）	０	０
自己点検		６	０	６ （100%）	０	０
その他		１６	２ （12.5%）	１４ （87.5%）	０	０
総　合　計		１４２	８ （5.6%）	１３４ （94.4%）	０	０

業務実績評価集計表（令和元年度）

区分		評価対象項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育研究等	教育	４５	０	４５	０	０
	学生支援	１９	１	１８	０	０
	研究	１１	０	１１	０	０
	地域貢献	１１	３	８	０	０
	グローバル化	９	０	９	０	０
	合　計	９５	４ （4.2%）	９１ （95.8%）	０	０
法人経営		２４	１ （4.2%）	２３ （95.8%）	０	０
自己点検		６	０	６ （100%）	０	０
その他		１６	０	１５ （93.8%）	１ （6.2%）	０
総　合　計		１４１	５ （3.6%）	１３５ （95.7%）	１ （0.7%）	０